



原典「平家物語」を聴く会

平成二十年・春号

DVD『原典 平家物語』という作品を

手掛けられた事は大変な事だと思います。

澤村藤十郎さんに聞く

口跡が良く、美貌で姿よしの名女形、澤村藤十郎。「関西で歌舞伎を育てる会」を発足し、関西を中心に公演を開催。他にも「四国こんびら歌舞伎」や「厳島の薪歌舞伎」など歌舞伎の魅力を広めようと各地の歌舞伎や芝居小屋復興に尽力する中、一九九八年に脳出血で倒れるが、懸命のリハビリで見事復活。DVD『原典 平家物語』の演出をする一方、自らも出演した同演目のライブ公演も決定！（平成20年5月29日・紀尾井小ホール）「これは本格復帰の前哨戦です」と意欲を語った。

●98年に倒れられてほぼ10年の間、どのような生活をされていましたか？

自宅で倒れまして20日間意識がなかったんです。気がついた時は2軒目の病院でした。退院時にお医者さんからあなたの体は2度と戻ら



なから引退して下さいと言われてまして、それから30人くらいお医者さんを経て本当にいい先生と出会い、今は手も足もこんなに動くようになりました。

倒れる以前は、役者はみんなそうなんです。3時に寝るといった夜いっぱいだったんですよ。でも今は夜は9時か10時に寝て、朝は4時から5時には起きるという鳥とともに寝て鳥とともに起きる(笑)という生活になりました。それでね午前中はいろいろな事が頭に入るので、倒れる

前に関西で歌舞伎を育てる会と一緒に作った、明石さん・故明石友成。関西で歌舞伎を育てる会の設立に尽力がくれたビデオが約三千本あったんですね。暇になったからそれを見始めたら、今はもう見ることでできない、本当によだれの出るような貴重なものばかりで、他にも自分で持っていたものもいろいろありましたので5年間で約二万本のビデオの整理をしました。仕事が再開できるようなたらこうやろう、ああやろうと、とても勉強になりました。

古いものは宝庫ではありませんが、そのまま演るのではなく、ちよつとお醤油ちよつとお酒をかけて新たな美味い料理として蘇らせるんです。今頭の中で、そんな感じのいろいろな

作品の構想が百くらい出来上がっています。倒れる前は忙しくてやれなかったことが出来て、頭の中の大掃除が出来たと感じています。

●DVD『原典 平家物語』の演出と自ら語り出演されての感想を聞かせて下さい。

「源氏物語」はブレイボーイの話でやわらかいから多くの方が手をつけていますが「平家物語」はとにかくむずかしい、だから今まで誰も手をつけなかった。ですから原文のまま「平家物語」を語るDVD「原典 平家物語」という作品を手掛けられたという事は大変な事だと思います。そして私も参加させていただけたい事を本当にうれしく思っています。完成されたら百年は残る作品だと思います。また歌舞伎役者としての自分がこの作品を演らせていただけて楽しかったことは、清盛、重盛、宰相(教盛)と三役の3つの気持と声と感情を一人で表現させていただけたい事です。5年ほど前にこの企画のお話をいただき、演出・語りを手掛けさせていただいた過

程がリハビリの一環であったとも感じ、感謝の気持ちでいます。

●5月29日の公演に向けての気持ち聞かせて下さい。

「お芝居には喜怒哀楽が必要で、今のお芝居には、楽の部分が少し足りないと感じているんですね。ですから5月の公演においてもその「楽」を自分で考えて足したものを演りたいと考えています。原文は素晴らしいものなのでそのまま、間のつなぎ粉にその「楽」を足すという感じだと思っています。

また体が充分に動くわけではないので、「本格復帰の前哨戦」という感じですが、ぜひとも皆さんに楽しんでいただけるものをお願い、今お稽古に励んでいます。

【澤村藤十郎】昭和18年10月12日生まれ。八代目澤村宗十郎の次男。屋号は紀伊國屋。定紋は笹りんどう、波に千鳥。昭和32年1月歌舞伎座「忠臣蔵」九段目の一力の娘お久役で澤村精四郎として初舞台。昭和51年9月歌舞伎座「白石断」の信夫ほかで二代目澤村藤十郎を襲名。昭和54年低迷する関西歌舞伎の中、関西で歌舞伎を育てる会」を発足し関西を中心に公演を開催。他にも厳島神社薪歌舞伎、四国こんびら歌舞伎、出雲阿国歌舞伎と各地の歌舞伎や芝居小屋復興に尽力する中、平成10年に脳出血で倒れる。本格復帰へ向けての特別公演「平家物語の夕べ」が平成20年5月29日、紀尾井小ホールにて開催される。

原典「平家物語」巻第一と巻第二がDVDとなって発売されました。



観て、聴いて、感じる 原典「平家物語」DVD

[巻第一から
灌頂巻まで全13巻]

●監修 梶原正昭(早稲田大学名誉教授)、大津雄一(早稲田大学教育・総合科学学術院教授) ●底本監修・学術指導 利根川清(早稲田大学高等学院教授)
●各巻 定価 21,000円(税込み)[各巻、上製布張三方背函入、上製布張DVDデジバック、詳細な「解説冊子」付き] 協力:松竹株式会社

絶賛発売中【巻第一】

- 「祇園精舎」 出演：中村吉右衛門
尺八：三橋貴風
- 「殿上闇討」 出演：野村萬斎
- 「禿髪」 朗読：島本須美
- 「吾身栄花」 筑前琵琶：上原まり
鼓：藤舎呂英 笛：福原百七
- 「祇王」 出演：平野啓子
- 「殿下乗合」 出演：平井真軌 磨赤兒
- 「鹿谷」 出演：片岡秀太郎
坂東三津五郎 市川段四郎 他



絶賛発売中【巻第二】

- 「西光被斬」 出演：市川段四郎
磨赤兒
- 「小教訓」 出演：岡橋和彦
- 「大納言死去」 朗読：下條アトム
- 「徳大寺殿鳥詣」 出演：富沢亜古
- 「卒都婆流」 朗読：下條アトム



2008年
3月31日
発売

【巻第三】

- 「赦文」 出演：澤村藤十郎 杵屋勝国 望月太喜雄 他
- 「足摺」 出演：坂東三津五郎 他
- 「御産」 出演：菊川怜
- 「有王」 出演：坂東三津五郎 他
- 「僧都死去」 出演：坂東三津五郎 他
- 「臈」「無文」 出演：榎木孝明
- 「法印問答」 出演：風間杜夫 磨赤兒 岩佐鶴丈
- 「法皇被流」 出演：風間杜夫 磨赤兒 岩佐鶴丈



巻第三「赦文」「足摺」「御産」「有王」「僧都死去」「臈」「無文」「法印問答」「法皇被流」
以後 巻第四・巻第五・巻第六・巻第七………灌頂巻まで毎月一卷ずつ発売予定です。

◎推薦のことは

現代に蘇る平家物語の世界 DVD『平家物語』

◎法政大学名誉教授

杉本圭三郎



(すぎもと けいざぶろう)1927年生。1959年、法政大学大学院日本文学修士課程終了。現在法政大学名誉教授。著書に、『軍記物語の世界』、論文「平家物語の変貌」(『文学』1968年10月)。共著に『シンポジウム日本の文学「平家物語」』。個人全訳注の『全訳注 平家物語』(全12巻)など。

古典平家物語の原文そのままの朗唱で、美しい背景の映像や、日本の伝統音楽の楽器による演奏と一体となった舞台に、物語の世界は新鮮に蘇った。かつて「平家物語」は琵琶法師によって貴族の私邸で、あるいは琵琶を背負って諸国を廻遊し、社寺の境内などで語られ、「物語を語んじて滞ることなく、その音声も容姿も、ともに麗しく興味深い」と評されたが、いま、能・狂言、歌舞伎から新劇、筑前琵琶の奏者など演劇・芸能のさまざまな分野の、鍛えぬかれた芸の達人によって演唱される物語のそれぞれの場面の迫力は、あらためて「平家物語」の文体のもつ魅力を痛感させられるものである。

巻頭、「祇園精舎の鐘の声」ではじまる一節は、物語全篇の序章としてその終焉まで通奏低音のように背後に持続していくが、歌舞伎界の重鎮中村吉右衛門の深い響の演唱は、物語世界への導入としても極めて効果的である。巻第一の展開のなかでも、「殿上閣討」の章では、五節の舞にうたわれる歌謡を出演される野村萬斎は狂言小唄の曲節でうたわれたり、筑前琵琶の上原まり弾き語りの「吾身栄花」や、白拍子姿で「祇王」を語る平野啓子など、変化に富んだ、多彩な場面で進展する。「鹿谷」では、平家打倒の密議の後の宴で、成親が倒れた瓶子を平氏にみだてて首をとる、といった酔態の虚勢の場面を、片岡秀太郎、坂東三津五郎、市川段四郎たちが分担して劇的に演じながら語る。

現代語の乱れを直し、美しい日本語を磨くためにも、くりかえし視聴されるべき作品である。

原典『平家物語』を競演する

◎名古屋大学名誉教授

山下宏明



(やました ひろあき)1931年、兵庫県生。1958年、神戸大学文学部卒業。1964年、東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程終了。博士(文学)。名古屋大学、愛知淑徳大学教授を経て、現在名古屋大学名誉教授。著書に、『平家物語研究序説』、『平家物語の生成』、『太平記』、『語りとしての平家物語』、『琵琶法師の「平家物語」と能』など。

伝統芸能が、「平家物語」をどのように読むのか、その競演の結集編である。木下順二・山本安英らの群読、あるいは加藤道子・森繁久彌の名作朗読を思い出す。「平家物語」の語り・音読・芝居・舞踊を、照明・音楽・音響・撮影が支える。舞台装置は、能のように抑えるが、一方で現地の口ケとナレーションが臨場感をかきたてる。能狂言の囃子、浄瑠璃・歌舞伎の三味線、琵琶、さらに洋楽、シンセサイザーまで参加する。しかも出演者の語り、朗読が全く「平家物語」のままである。現代語とは異なる中世語音読の正確さは、清濁・音便や読みなど、いずれも聴いて全く不自然さを感じさせない。改めて「平家物語」の文体、ことばの力に驚いた。演者の声を聴きながら、思わず原文を口ずさんでしまう。すぐれた演出、高感度カメラによる画像、その色彩・鮮明さも抜群である。企画は十一年にわたって練られて来たと言う。撮影も数年がかり。全体、十三巻の構成をとるのは、言うまでもなく、原典「平家物語」の本編十二巻に灌頂巻を加えたもので、その各巻のいずれの部分を探るかについて、物語の構成の配慮も行き届いている。絞るべき登場人物の選定にも企画者の物語への思い入れがあったはず。動員された伝統芸能の総結集、しかも、この企画に参加する全員が「平家物語」読みの競演を行っていると云ってよいだろう。付録の解説冊子は、巖島神社に伝わる、清盛が参加した「平家納経」の画像を表装に、出演者の近影、研究者の解説、林原美術館が蔵する「平家物語絵巻」まで添えられ、原典の読みを助ける。編者や執筆者までもが競演に参加する。すぐれた物語は多様な読みを可能にする。視聴者もぜひ読みをとおして競演に参加していただきたい。

「屋島」

◎利根川 清 （早稲田大学高等学院教諭）

西国へ落ちた平家一門が再起の地とした屋島は現在の香川県高松市の東北部に位置する、文字通り平らかな屋根のような形の島です。寿永2年（1183）

七月、木曾義仲の追撃によって都を落ちた平家一門は、一旦は九州を目指したものの、在地の豪族緒方三郎惟義にそこを追われ、四国の豪族阿波民部重能の助けを得て、ようやくこの地に落ち着きます。本来、西国を地盤とする平家は、次第に勢いを盛り返し、一ノ谷（現神戸市）に上陸、

都へと迫りますが、義経の奇襲によりあえなく敗れ、再び屋島に後退します。翌年（1185）

二月、義経は暴風をつけて船出、四国に上陸すると、即座に屋島を小勢で急襲します。瞬く間に安徳帝の御所は焼かれ、平家一門は四国屋島の地からの撤退を余儀なくされます。

「平家物語」に描かれるこの屋島合戦では、那須与一の「扇の的」、悪七兵衛景清の「綴（しころ）引き」、佐藤継信の討死、義経の「弓流し」といった剛勇、武芸の逸話が多く生まれます。

こうした逸話は後世、民俗芸能、また能や歌舞伎の演目となり広く人口に膾炙するところとなっていました。

現在この屋島には、そうした芸能の縁があつてか、玉藻座という農村歌舞伎の貴重な舞台が移築され、篝火歌舞伎が催されています。今回インタビューに登場の澤村藤十郎さんもここで「平家官女」を踊っています。この

屋島の地には、そうした逸話の伝承を伝える佐藤継信・菊丸の墓、与一駒立石などの遺跡が今も残されています。



「アクセス」JR屋島駅、琴電屋島駅から車10分

「平家物語の夕べ」澤村藤十郎 舞台復帰に向けての特別公演

■日時 平成20年5月29日(木) ■会場 紀尾井小ホール

■時間 17:00開演 (16:30開場) ■料金 7,000円(全席指定)

■主催・原典「平家物語」を聴く会 ■後援・松竹株式会社 ■協力・株式会社ハゴロモ

■チケット申し込み・問い合わせ 原典「平家物語」を聴く会 (03-6673-3863) 紀尾井ホールチケットセンター (03-3237-0061)

●プログラム

序章『祇園精舎』（映像題字・書）関万希子

『歌舞伎界にとっての朗報』小山観翁（江戸勘亭流書道家元・松竹株式会社顧問）

澤村藤十郎演出による映像作品のダイジェスト上映(一)

（映像出演）片岡秀太郎、坂東三津五郎、市川段四郎 他

澤村藤十郎出演『赦文』上演

（語り）澤村藤十郎、（演奏）杵屋勝国、望月太喜雄 他

講演『平家物語の世界』…国文学・歴史学から当代一流の研究者の方々をお招きしての特別講演

（講師）五味文彦（放送大学教授・東京大学名誉教授）、杉本圭三郎（法政大学名誉教授）、山下宏明（名古屋大学名誉教授）五十音順

澤村藤十郎演出による映像作品のダイジェスト上映(二)

（映像出演）坂東三津五郎、坂東秀調、坂東巳之助 他

澤村藤十郎よりあいさつ

総司会・葛西聖司（NHKアナウンサー）



澤村藤十郎



片岡秀太郎



坂東三津五郎



市川段四郎

（公演内容につきましては変更になる場合がございますのでご了承下さい。）